

令和6年5月〇日

鳥取市長 深澤義彦 様

気高町地域振興会議
会 長 河根 裕二

気高地域の新設統合小学校建設に係る意見について(案)

市長様には、日頃から、気高地域のまちづくりにご尽力いただき、感謝申し上げます。
先般、気高地域の統合新設小学校の建設候補地のボーリング調査等が終了し、建設地が予定通り決定の運びとなりました。

つきましては、新設小学校建設に連動するまちづくり構想を、本会議で下記の通り取りまとめましたので、ご報告いたします。

1 浜村駅南地域まちづくりの構想について

新設小学校の建設地は、地域の核となるべきJR浜村駅南で、気高町総合支所にも近く、各種公共施設も集まっています。気高地域の生活拠点ともいえる場所である。気高地域のさらなる発展のためには、新設小学校建設と合わせて、周辺的生活道路網を整備することが重要である。通学路の安全確保や災害時の対応の迅速化にもつながる最重要事項といえる。

○二車線道路の設置

山陰道インターチェンジから学校や公共施設に通じる幅5メートル以上の二車線道路を整備すると、建設工事用車両の通行が容易になるとともに、開校後のスクールバスの運行や増加が予想される車両のすれ違いがスムーズになる。地域住民も集まりやすくなって地域が活性化するとともに、安心・安全なまちづくりが促進される。

その際に、歩道やガードレールが整備されると、子どもたちの通学や校外学習が安全に行えるようになる。

○踏切の改善

グレースタウン横の踏切の幅が狭く、車1台通るのがやっとである。踏切を渡って通学する児童がいることが予想されるので、安全・安心な通学ができるようにするためには、踏切の幅を3倍に広げるか横断歩道橋を設置することが必要である。あるいは、道路の位置を変更して、線路の上を走る高架道路を通すと、さらに利便性が向上する。

○通学路の整備

その他、新たに児童の通学路となると思われる道路に対して、必要に応じて縁石の設置、路側帯の確保、ガードレールの設置、ゾーン30（プラス）設定等ができるように、担当課への指示をお願いしたい。

2 施設の複合化について

全国的なモデルケースとなる地域一体型の特色ある学校づくりを進めるうえで、気高地域の実態に合った教育施設の複合化・共用化を推進することが重要である。

○放課後児童クラブの併設

浜村小学校の放課後児童クラブの利用者は、現在約100名もおり、大変ニーズが高いといえる。統合によりさらに利用者が増えることが予想されるので、大人数の受け入れ可能な施設が必要となる。学校に隣接して放課後児童クラブが入れる施設を設置すると、児童の負担が減り、保護者の安心感が高まり、「子育て世代が住みたいと思う町」づくりにつながる。

○不登校児童・生徒の居場所「サポートルーム」の併設

気高地域は不登校児童・生徒の出現率が高く、該当児童・生徒の居場所づくりと学力保障が喫緊の課題となっている。現在は鹿野町に市のサポートルームがあるが、送迎の関係で気高地域からは通いにくい状況にある。校地内にサポートルームを設置することで、支援が必要な多くの子どもたちが、適切なサポートを受けられようにならなくてはならない。

○多目的ホール・体育館が開放できる設計

統合小学校の多目的ホールや体育館を地域住民も活用しやすい形状や配置にすると、講演会、芸術公演、コンサート、映画上映等のイベントで活用できるようになる。気高町では、現在、大人数が集まる文化的なイベントを地元で企画することが難しい状況にあり、文化ホールの機能を有する施設の設置がぜひ必要である。気高地域をロケ地とした映画の撮影・上映を行う浜村温泉映画祭も大々的に開催できるようになり、知名度も上がっていくものと思われる。

○温泉を有効活用する設計

統合小学校の建設予定地には、地下に源泉があると思われる。ボーリング調査で温泉が出ていたら、ぜひ、温泉プール、足湯等でも有効活用し、児童のみならず地域住民も浜村温泉の恩恵にあずかれるように検討を進める必要がある。浜村温泉に再度光をあてるチャンスになると思われる。

○気高町コミュニティセンター、総合福祉センターの併設

老朽化が課題となっている上記の2施設を学校と複合化して建設すると、建設経費を削減できるとともに、地域一体型の特色ある学校づくりが可能となる。学校教育の地域連携は全国的に強化されてきているが、さらに一歩前進させるために施設の複合化を図れば、多様な連携を模索することが可能になる。

併設を検討することで校舎建築が遅れてはいけませんが、併設を念頭に置いて敷地を確保しておく必要はあると思われる。

○バスの停車場・バス待合所の設置

スクールバスを利用する児童が、風雨を防ぎながら安心して待てるバス待合所を児童玄関近くに設置する必要がある。また、安全な乗降のためには、バスが長時間停車できる停車場も必要である。バスの回し場も設定して、スムーズな運行ができるようにしておくことが、安全を確保する上で重要なポイントになると思われる。

○広い駐車場の整備

統合すると、学校行事等で、車で来校しなくてはならない保護者が、ぐんと増える。施設の複合化を図ると、地域住民の駐車場利用も多くなる。できるだけ校庭や道路に車を止めなくて済むように、少なくとも100台は駐車できるスペースを確保しておきたい。市の無料駐車場として休日には、地域住民が自由に利用できるようにすると、様々なイベントで駐車場が役立ち、気高地域の活性化につながると思われる。

学校のすぐそばが難しいようなら、周辺整備の中で、駐車場として使えるスペースを計画的に確保していくことが気高町の将来のために大変重要である。

○災害時避難所としての機能整備

災害時に、水・電気等のライフラインの復旧に時間がかかってしまうと、避難所の生活環境が悪化してしまう。太陽光発電や簡易水道施設を整備しておくことが、いざという時の安心につながる。防災教育への活用も期待できるので、校舎建築とあわせて災害時に大いに役立つ施設整備をしておくことが大切である。

○周辺の景観にマッチした校舎の設計

鷲峰山を望む自然豊かな田園地帯になじむ校舎にするために、木材を効果的に活用したいものである。校舎内装に木材をふんだんに使うと、子どもたちが日々、木のぬくもりを感じながら心豊かに学校生活を送ることができる。廊下等の結露をおさえる効果もあるので、木材を有効に活用したいものである。

今回は、基本設計や用地買収に関わることのみ意見を述べさせていただきましたが、総合的な学習や生活科で必要になる学校林や学校田の取得なども構想に入れておきたいところです。

気高町の将来の発展に関わることなので、上記の意見を設計等に反映するよう御指示いただきますよう、どうぞよろしくお願い致します。